研究ノート

きゅうちゃんの歴史（Ⅰ）
―誕生編―

石田ゆき [1)]

ISHIDA Yuki

キーワード：きゅうちゃん・看図アプローチ・ビジュアルテキスト

Ⅰ．はじめに

公表されていなかったきゅうちゃんの「こと」

「きゅうちゃんの作者石田ゆき」が「きゅうちゃんの歴史」について語る。もっと早くにこの企画を実現しておくべきであった。そして本論文をもっと早く世に出しておくべきであった。早く世に出すべきではあったが，今ほど「きゅうちゃん」の存在が大きくなることを作者本人も予想できていなかったため大目に見ていただきたい。

- 「きゅうちゃんって何？」
- 「きゅうちゃんってどうやって生まれたの？」
- 「制作意図は？」

…そんな疑問の声が，時を追うごとにだんだんと大きくなってきたのである。

2022 年で 6 歳（推定）になったきゅうちゃん。最近，教材として活用される機会が急増している。実践者である先生方，学生さん，児童・生徒，子どもたちから「かわいい」と言われ，実践を通した喜びの声を多数頂戴している。作り手・生みの親としてはうれしい限りであり，「きゅうちゃん，生まれてくれて，みんなに喜びを届けてくれてありがとう」である。

元始「きゅうちゃん」

「きゅうちゃん」の誕生，それは鹿内信善先生から棒人間で描かれたメモを渡されて，「こういうのつくって」と伝えられたことがきっかけであった。そのときの棒人間メモを探したが現物を見つけることができなかったため，記憶を頼りに筆者が再現した（図 1）。

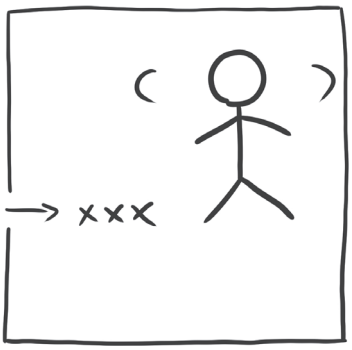

図 1　きゅうちゃんの原型となるメモの再現

このような図をもとに「この人がこうなって×がこうなって…」と鹿内先生からお話があった。筆者は「複数枚に渡る絵図だ」「この棒人間はそのまま棒人間で描くわけにはいかないな」と，お話を聞きながら考えた。そして「そもそもこの棒人間はヒト？×は何？」という疑問が浮かんできた。いつもこのように教材絵図づくりは始まる。筆者が「こんなの教材絵図にどうですか」と提案する場合と，鹿内先生から「こんなの描いて」と依頼される場合がある。もちろん，全国の先生方から「こんなの描いて」と依頼されることもある。

1) 日本医療大学

鹿内先生からの依頼では具体的イメージをもらえることは稀であるが，今回は具体的イメージがあった。しかし，棒人間を棒人間のまま完成作品にするのは看図絵師としてはありえない。何か単純な形のキャラクターにしたい。このように「きゅうちゃん」構想が動き始めた。

そうして「棒人間」や「×」が何なのかわからないまま完成したのが図２である。鹿内先生からは即 OK が出された。データ情報から 2016 年 1 月 11 日以前に制作したことがわかっている（写真１）。

この「初代きゅうちゃん」（図２）がきゅうちゃんの元始となるものである。このときはまだ「きゅうちゃん」という名前はなかった。会話の中ではただ「このキャラクター」「この子」と呼ばれていた。

Ⅱ．「きゅうちゃん」命名秘話

きゅうちゃんが初めて授業に登場したのは，2016 年 1 月 13 日，鹿内先生の授業である。A 大学の大学院生（４名）に対して行われた授業であり，その後に控えていた看護系 B 大学での実践前の，予備実践として行われた。図２（右）を活用した実践である。

その授業の中できゅうちゃんは「このキャラクター」から「きゅうちゃん」という名前になった。そのときの授業記録を掲載する。読者のみなさまにも「きゅうちゃん」命名の瞬間に立ち会っていただきたい。なお，本論文中で紹介する写真はすべて筆者が撮影したものであり，必要に応じてモザイク処理を施してある。

写真１　データ作成情報

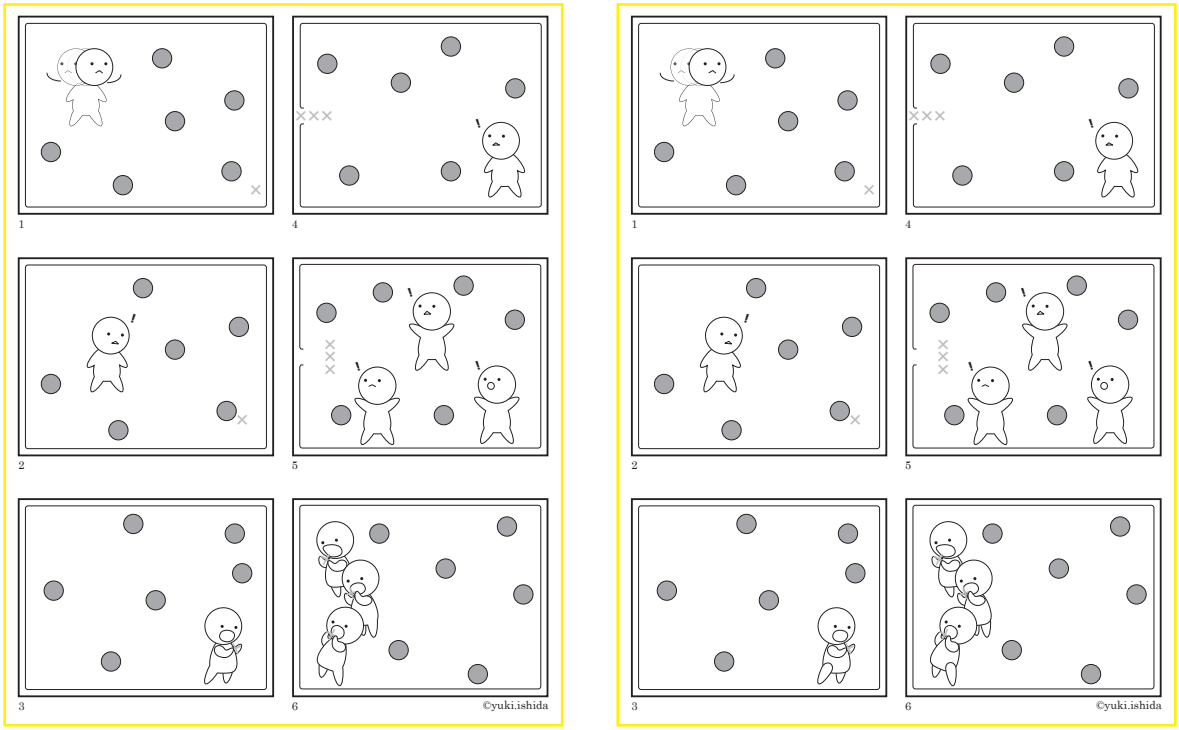

図２　通称「初代きゅうちゃん」（３枚目・６枚目のきゅうちゃんの足の表現が違うものを２種類制作していた）

（前略）
T　では次です。どんなことが描かれているか，書いてください。
Ss　（ワークシート記入・個人思考）
T　では S1 さんからラウンドロビンしてください。
S1　えっと，黒い丸がバラバラにあるのと，その黒い丸をキョロキョロ見回してるキャラクターがいるのと，謎のバツがある。
T　うんうん。
S4　えっと，人形？キャラクターと，丸と…「こと」ですか？
T　こと。
S4　二重の四角の中にキャラクターと丸とバツが描いてある。…以上。
S3　私は，人がまわりを見ている，です。
S2　私は，四角の中に丸が 6 つ描かれていて，四角の中に顔を左右に向けている人がいて，四角の右下にバツ印が描かれている。
T　はい，じゃあいいですね。次です。次どんなことが起こると思いますか。これは相談していいです。どうぞ。
S1　どんなこと…
S2　ん？ん？ってしてるから。
S1　すごい想像力膨らませると，6 つの黒い丸がヒューって集まって 1 個の大きい丸になる。
Ss　（笑）
S1　ますますあの子はキョロキョロする。
Ss　（笑）
S1　どうしたどうした。
S3　頭が増える。
Ss　はははははは！（笑）
S1　すごい高速回転しだす。頭増えるいいなあ。
S2　シュシュシュシュシュシュ…
（中略）
S2　バツを探してる？
S1　バツを探してる。
S3　穴かもしれない。
S1　穴ね！
S2　じゃあ彼は，彼は，勝手に彼にしちゃった。
S1　いいよ，彼にしていい。
S3　名前つけていいよ。
Ss　（笑）
S2　何にしようかな。**きゅうちゃん**は…

写真 2
S2 さん（右から 2 番目）が
「きゅうちゃん」と言った瞬間

S1　じゃあ，きゅうちゃんね。
S3　きゅうちゃん。
S2　歩きながら穴に入らないようにバツを探しに行く。
S1　ああ，なるほど。私何か穴から出てくるのかなと思った。
Ss　（笑）
（後略）

この後，学生たちは「きゅうちゃん」を共通語として活用し，対話の中で自然に「きゅうちゃん」を動かしていた。授業の中で何度も「きゅうちゃん」の名前が呼ばれた。それまで「このキャラクター」「この子」「彼」と呼ばれていたキャラクターが，ここで初めて「きゅうちゃん」として誕生したのである。

Ⅲ．「好中球」教材としての活用

図 2 の 6 幅のきゅうちゃん絵図を読み解いたあとの授業展開を紹介する。読解活動のまとめとして，ワークシートを配付しながら次のようにすすめていく。T は引き続き鹿内先生である。ワークシートや資料の掲載はここでは省略する。（詳

細について知りたい方は，全国看図アプローチ研究会公式ホームページからお問い合わせください。）

（前略）
T　（ワークシート配付）まず読んでいきます。「出生時の白血球数は非常に多く，好中球が主体となっている」。この文章はどういう意味だと思いますか。わかることがもしあったら書いてください。
Ss　（ワークシート記入）
（中略）
T　はい。S3 さんが「少し関係する」。次です。これも予備知識です。（ワークシート配付）
Ss　（各自文章に目を通している）
T　いいですか。そしたら，ではこのさっき見てもらったきゅうちゃんの絵ですけども，きゅうちゃんていうのは「球」でいいですね。好中球のことを描いてあるんです。（ワークシート配付）
S1　はあ。
T　ありがとう。
S1　すごいですね。
T　はい。すごいですねって。
S2　なるほど。
T　なるほど，ありがとう。
S1　ほんとに「きゅう（球）ちゃん」でしたね。
Ss・T　（笑）
T　では問題です。「一連の絵図は好中球の生体防御の仕組みを表しています。好中球はどのようにして生体を防御しているのでしょうか。6 枚の絵図の順序に沿って説明してください。」それを 5 分くらい時間あげますので絵図に沿ってそこに書いてください。個人で。
Ss　（ワークシート記入）
T　はい，S2 さんが一番整って書いてくれてたので。S2 さんどうぞ。
S2　ウイルスなどの異物が体内に侵入していないか確認したり探したりする。
T　（スライドに絵図を表示しながら）はい，これ 1 枚目ですね。これが好中球なのはもうわかりましたね。好中球っていうのはパトロールしているんです，ずっと。体内を，血液中を。で，パトロールしながら異物がないかいつも注視している。はい次ですね。
S2　で，ウイルスなどの異物を発見。
T　異物を発見したら。次は。
S2　ウイルスを排除する。
T　排除する。はい，これを，（板書しながら）「貪食」っていいます。
Ss　貪食。ふーん。すごい。
T　貪食する。
Ss　（板書の「貪食」をメモしている）
T　それで？次ですね。
S2　ウイルスが先ほどよりも多く体内に侵入したのを発見する。
T　発見する。はい，そうすると？
S2　ウイルスの割合に合わせて好中球も増える。
T　結集してくるんですね。そして最後まとめです。
S2　増えた好中球でウイルスを排除する。
T　排除する。はい。という中身なんですね。まるでもうひとつの世界のようなのが血液の中にあって，それぞれの役割を果たしているんですね。はい，それでは。みなさんは発達教育学の方なので，とくに子どもの発達段階の最初のところの血液に関するテキストをコピーしてきました。（テキスト配付）「…のところから読んでってください」の終わりのところまで読んでください。
（後略）

「きゅうちゃん」の「きゅう」は「好中球」の「球」。学生たちは「好中球」の内容だとは知らずに授業を受けていた。しかし S2 さんは，おそらくその丸いビジュアルから「きゅう（球）」を取り出してくれた。S2 さんには，良い名前をつけてくれたことに感謝申し上げたい。

図 2 を活用した授業は，2016 年 3 月 24 日，看護系 B 大学でも実施された。授業担当者は菊

原美緒先生・土井裕美子先生である。途中からは鹿内先生のファシリテーションも加わり，学生たちは対話が弾み，よく見て，よく考えて，よく学ぶ機会になっていた。後日談として，「学生たちは授業の後，普段は積極的に勉強する気になれない細胞に関する部分を，教科書から探して熱心に読んでいた」ということを伝え聞いた。「きゅうちゃんはビジュアルテキストとして活用できる」ということが再確認された機会だったといえる。Ｂ大学での授業内容は先に紹介したＡ大学のものと同じであるため詳細は割愛するが，授業の様子を写真３に載せておく。

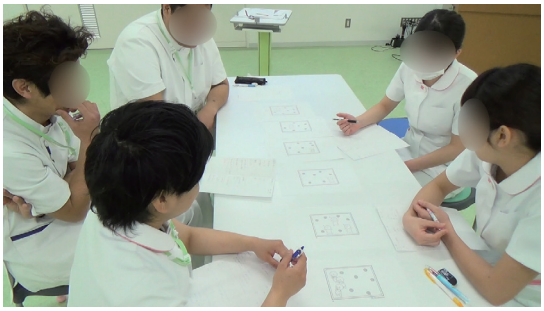

写真３　Ｂ大学での授業の様子

Ⅳ.「きゅうちゃん」としての第一歩

初代きゅうちゃん（図２）の実践がひと段落した頃，鹿内先生との打ち合わせで「かわいいし，旅するきゅうちゃんとか，きゅうちゃん学校に行く，とかキャラクター化・シリーズ化したら面白いのでは？」という話が出された。筆者の「きゅうちゃん」制作はここから本格化する。

2016 年 4 月 23 日，北海道内のＣ小学校にて研究会が行われた。このとき訪ねたのは当時校長職にあった渡辺聡先生である（写真４）。

写真４　左／鹿内先生，右／渡辺先生

渡辺先生は看図作文以前の研究段階から鹿内先生のもとで「見ること」「読むこと」の研究に長年携わってきた方である。渡辺先生の学校では当時「見る人を育てる」という全校研究テーマを掲げていた。学校教育の中に取り入れやすい教材はないかということで提案したのが，生まれたばかりの「きゅうちゃん」であった。

写真４のテーブルの上にご注目いただきたい。どんな「もの」が写っていますか？（写真５）

写真５　写真４のアップ

テーブルの上にあるのは，手描きのきゅうちゃんのコピーである。きゅうちゃん初出（2016 年 1 月 13 日）の後，ようやくきゅうちゃんが「きゅうちゃん」として動き始めた場面である。コピー元の手描きノートが写真６である。なおこのノートは 2016 年のスケジュール帳である（写真７）。

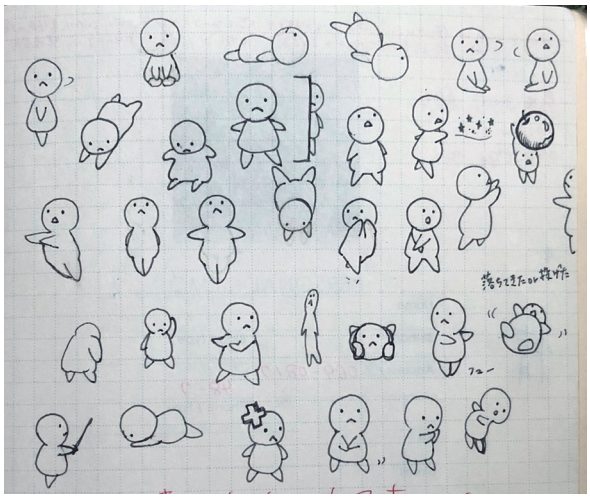

写真６　手描き段階のきゅうちゃん

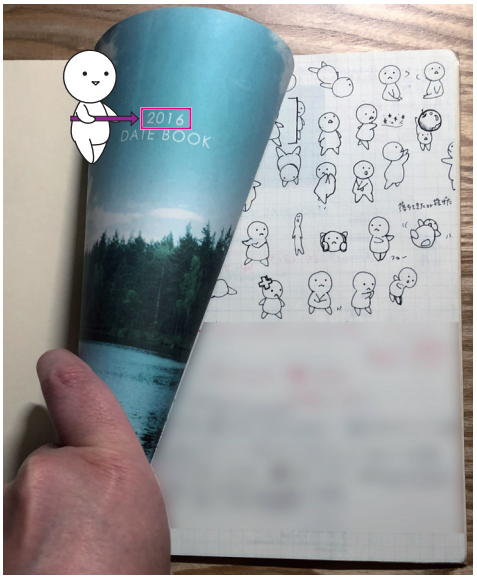

写真７　2016 年のスケジュール帳

ページに日付の記載をしていなかったが，写真４の状況から，2016 年 4 月 22 日以前に描いたことは間違いない。

また，対話状況を設定しやすくするために後に「ぴいちゃん」というキャラクターを制作した。「ぴいちゃん」は「きゅうちゃん」のお友だちやきょうだいのような存在である（図３）。きゅうちゃんリストでの登場順は 248 番目で，制作時期はデータファイルでは「2016 年 10 月 22 日」となっていた（写真８）。ただし，データファイルは上書きや複製を繰り返しているためこの日時が最古のものであるとは断定できない。なお，鹿内先生は「見る人が混乱するのできゅうちゃんをメインにつくって」と指摘し続けてきた。このことから，きゅうちゃんリスト 522 番目でウエイターとして登場してもらったのを最後に，ぴいちゃんの制作は打ち止めになっている。本稿で初めてぴいちゃんを知った読者の方，そしてすでにご存じの方にも，その存在を頭のすみっこのもう少し奥の方にしまっておいてほしい。

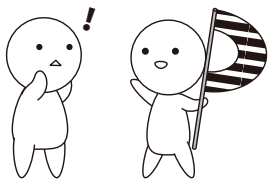

図３　時々「ぴいちゃん」（右）も出てきます

Ⅴ．おわりに―変幻自在のきゅうちゃん

当初，どのように使われる絵図なのかもわからずに制作を開始した「きゅうちゃん」。「好中球」教材として動き出した「きゅうちゃん」。いつの間にか多くの方に受け入れられ，かわいがられる存在となった。全国看図アプローチ研究会の公式マスコットキャラクターとしても定着してきた。きゅうちゃんは看図作文絵図とも写真教材とも違う新たな可能性を秘めたビジュアルテキストになっている。そして筆者の代名詞ともいえる存在になってくれている。

「きゅうちゃんの制作意図は？」と聞かれることがある。これは少々答えに窮する質問である。なぜなら，筆者はきゅうちゃんをつくるとき「○○してるきゅうちゃんつくろうっと♪」「○○な感じのきゅうちゃんつくろうっと♪」くらいしか考えていないからである。このような「イメージ」はもって制作している。「イメージ」しなければ，そもそも創作活動はできない。さらに言えば，どんなに頭の中でイメージしても，実際に手を動かすと，そのイメージと違ったものができあがっていく。100％イメージ通りな作品はできない。イメージして，手を動かして，描いて，消して，つくって，分解して…最終的に納得のいくカタチになれば完成。アートというのはそういうものではないだろうか。

筆者が個人的にきゅうちゃんをつくるとき，「○○先生にこういう授業をしてほしいからこのきゅうちゃんをつくろう」と意図を込めることはない。筆者自身が授業で活用するときにも，すでにつくってあるきゅうちゃんリストの中から選択するのである。「自分のこの授業のためにこんなきゅうちゃんをつくろう」と「意図」してつくってしまったら，曖昧性がなくなり，ビジュアルテキストとして成立せず，面白味のないもの

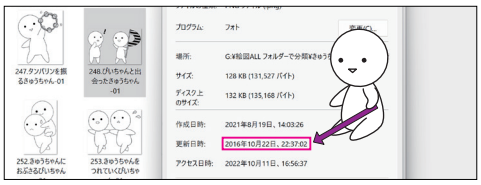

写真８　「ぴいちゃん」初期制作日

になってしまう。全国の先生方から「○○の授業に使いたいので△△しているきゅうちゃんをつくってほしい」と依頼されることがある。そこには当然，依頼主の「意図」が込められる。しかし，依頼を受け取った時点で「依頼主の意図」から「筆者（石田）のイメージ」に置き換えられる。筆者の制作の過程でさらにイメージは変容し，依頼主の意図とは少し（あるいは大いに）ズレたきゅうちゃんができあがる（本稿末図 4）。この「ズレ」も曖昧性同様ビジュアルテキストの必須条件のひとつである。「ズレ」で言えば，本研究会の公式 YouTube チャンネルで公開中の「きゅうちゃんデジタル絵本」作品のひとつ，「恋するきゅうちゃん」（URL：https://www.youtube.com/watch?v=YtVHrDcjZAo&t=54s）が良い例になる。この作品に登場するきゅうちゃんは女の子で，大好きな先輩を戸のすき間から覗き見ている（写真 9）。読者の方はこのきゅうちゃんがどんなことをしている場面と考えるだろうか。

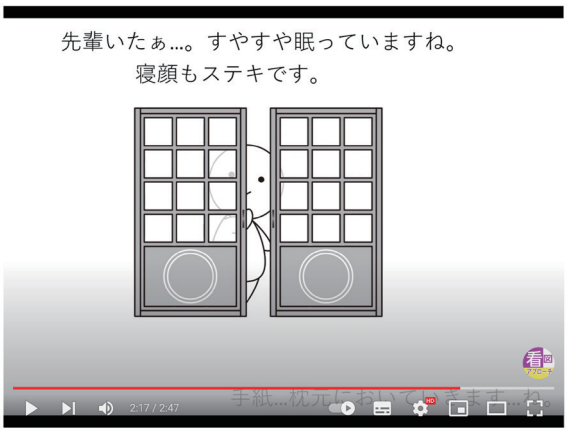

写真 9　「恋するきゅうちゃん」覗きシーン

このきゅうちゃん絵図はアイスブレイクでの出番が多い。詳しい実践内容については次報で紹介したいのだが，2021 年・2022 年度授業での読み解き例から一部抜粋して紹介する。

- ちらっと覗いている　　※すべて筆者の授業より
- 遠くから見守っている
- 新しい扉を開けて導いてくれている
- 「陰ながら応援しているよ」と言っているよう
- 救いの手を差し伸べてくれそう
- 座敷わらしを連想した
- 守護霊のような存在感がある　　…等々

きゅうちゃんがどのようにこちらを見ているか，ということだけでも様々な表現がある。そしてきゅうちゃんは，座敷童にも，守護霊にも，恋する女の子にもなれる。変幻自在な存在なのである。きゅうちゃんとその変幻自在的特徴との関連（変幻自在的存在＝ multi being）については鮫島他（2023 公刊予定）でも考察されている。なお“multi being”という概念は Gergen, K.J.（邦訳 2020）によって提案されたものである。Gergen の著書の翻訳者である鮫島と東村は，“multi being”に「変幻自在的存在」という訳語を充てている。また，きゅうちゃんが備えている特徴が，まさに「変幻自在的特徴」なのだということに最初に気づいたのは鮫島輝美先生である。

きゅうちゃんは本稿執筆現在，570 種類を超えるバリエーションがある。筆者は当面 999 種類を目指してきゅうちゃんリストの制作を続けている。きゅうちゃんリストの一部（写真 10）とその制作風景（写真 11）を「ちらっと」お見せして本稿を閉じようと思う。筆者自身これからも制作を続けながら，きゅうちゃんがどのように変化・進化していくのか見守っていきたい。

写真 10　きゅうちゃんリスト（一部）

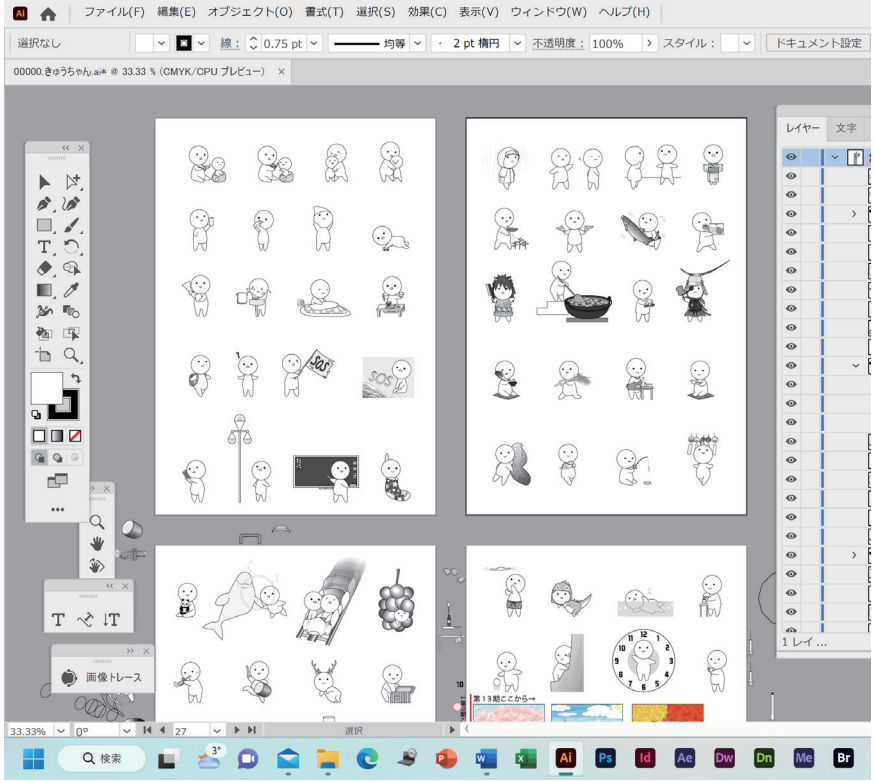

写真 11　Adobe Illustrator での作業画面

引用・参考文献

茅野徑子　2020 「肯定感を育て認め合う集団づくりを目指して－看図アプローチ協同学習による授業実践－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』2 号　pp.3-11

茅野徑子・時田優奈　2021 「いつでも，どこでも，だれでも，だれとでもできる看図作文指導－『きゅうちゃん，たぶんこうだったんじゃないか劇場』－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6 号　pp.3-15

茅野徑子・髙橋桃子・細川亜紀・小笠原明子　2021 「世界へ飛び出せ，グローバルきゅうちゃん！－ストーリーテラーに挑戦の巻－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』9 号　pp.3-19

福永優子　2022 「看図アプローチを活用した 5 歳児のおはなしづくり」『全国看図アプローチ研究会研究誌』10 号　pp.19-32

Gergen, K.J.（鮫島輝美・東村知子訳 2020）『関係からはじまる－社会構成主義がひらく人間観』 ナカニシヤ出版

石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善　2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ－絵本づくり授業実践の報告－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1 号　pp.2-15

美馬良哉・石田ゆき・森　寛・兒玉重嘉　2021 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『書くこと』の授業に関する予備的考察－『看図作文』授業の検討を通して－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6 号　pp.30-45

大村勅夫・池浦恵里　2020 「看図アプローチ協同学習を用いた古典読解単元の考察 その 1 －『きゅうちゃん』を用いて『伊勢物語』第 9 段を内容把握する－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』4 号　pp.14-23

大山和寿・山下雅佳実・石田ゆき・鹿内信善　2021 「看図アプローチを活用した法学における協同学習実践－民法を中心とした保育に関する問題を題材として－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』8 号　pp.23-40

鮫島輝美・石田ゆき　（2023 公刊予定）「演習型授業における学生の主観的学びの記述についての言説分析－自己紹介に看図アプローチを活用した事例から－」『協同と教育』第 18 号

鹿内信善　2003 『やる気を引き出す看図作文の授業－創造的［読み書き］の理論と実践』 春風社

鹿内信善　2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方－看図アプローチで育てる学びの力』 ナカニシヤ出版

鹿内信善編著　2010 『看図作文指導要領－「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン－』 溪水社

鹿内信善編著　2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち・看図作文レパートリー・』 ナカニシヤ出版

鹿内信善・大山和寿・石田ゆき・山下雅佳実　2021 「看図アプローチの法学教育への活用 －『民法』授業開発のための予備的検討－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』7 号　pp.19-32

田中 岬　2022 「 1 年生がスムーズに説明文が書けることを目指して－みぶりが伝える内容を文章化するための看図アプローチ－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』14 号　pp.3-21

田中 岬・石田ゆき　2022 「『看図アプローチ語りカフェ』を活用した 1 年生の自分作文－過去現在未来の自分に似たきゅうちゃんで思いを綴る－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16 号　pp.3-28

渡邊令子・山下雅佳実・鹿内信善　2022 「『持ち寄り型』ビジュアルテキストの誕生」『全国看図アプローチ研究会研究誌』11 号　pp.14-19

山下雅佳実　2022 「多職種連携教育プログラムの開発 －『看図アプローチ』で子どもと保育と看護をつなぐ－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』10 号　pp.33-52

山下雅佳実 「長崎県央看護学校『看図アプローチ研究会』の新たなはじまり」『全国看図アプローチ研究会研究誌』11 号　pp.20-26

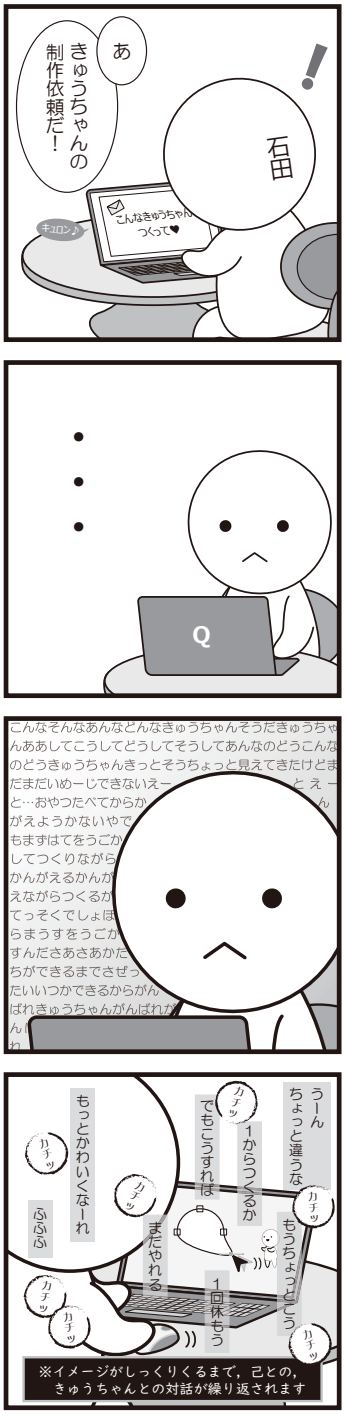

図 4　きゅうちゃん制作過程イメージ

2022 年 11 月 20 日受付
2022 年 12 月 12 日受理